

2021年6月13日(日)

Line C

スポンサーセッション | Live配信抄録 | スポンサーセッション

スポンサーセッション4

高齢者の口腔内環境改善を目指した超高齢社会における S-PRGフィラー含有材料の応用

座長：水口 俊介（東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野）

11:30 ～ 12:20 Line C (ライブ配信)

[SS4] 高齢者の口腔内環境改善を目指した超高齢社会における S-PRGフィラー含有材料の応用

水口 俊介¹、○猪越 正直¹（1. 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 高齢者歯科学分野）

スポンサーセッション | Live配信抄録 | スポンサーセッション

スポンサーセッション5

座長：中澤 桂一郎（利根歯科診療所）

14:30 ～ 15:20 Line C (ライブ配信)

[SS5] 新型コロナ禍の在宅医療の現場から～医科と歯科のよりよい連携のために～

○佐々木 淳¹（1. 医療法人社団 悠翔会）

スポンサーセッション | Live配信抄録 | スポンサーセッション

スポンサーセッション4

高齢者の口腔内環境改善を目指した超高齢社会における S-PRG フィラー含有材料の応用

座長：水口 俊介（東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野）

2021年6月13日(日) 11:30 ～ 12:20 Line C (ライブ配信)

[SS4] 高齢者の口腔内環境改善を目指した超高齢社会における S-PRG フィラー含有材料の応用

水口 俊介¹、○猪越 正直¹（1. 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 高齢者歯科学分野）

(2021年6月13日(日) 11:30 ~ 12:20 Line C)

[SS4] 高齢者の口腔内環境改善を目指した超高齢社会における S-PRGフィラー含有材料の応用

水口 俊介¹、○猪越 正直¹ (1. 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 高齢者歯科学分野)

【演者1 (水口俊介) 略歴】

1983年 東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業

1987年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了

1989年 東京医科歯科大学歯学部高齢者歯科学講座助手

2001年 米国ロマリダ大学歯学部 Visiting Research Professor

2008年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科全部床義歯補綴学分野教授

2013年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野教授

現在に至る

【演者2 (猪越正直) 略歴】

2006年 東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業

2011年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科全部床義歯補綴学分野修了

2014年 KU Leuven (University of Leuven), Doctoral School of Biomedical Sciences修了

2015年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野 助教

現在に至る

超高齢社会を迎えた日本では、今後も高齢者人口の増加が予想されている。平成28年の歯科疾患実態調査によれば、残存歯数の増加に伴って、高齢者におけるう蝕罹患者数の増加が示されている。一方、高齢者において義歯装着者の割合は減少しているものの、高齢者人口増加のため義歯装着者数は減少していないと考えられる。このような背景を鑑みると、高齢者の根面う蝕への対応と、義歯装着者の口腔内環境改善は、今後取り組むべき重要な課題であると考えられる。

株式会社松風が開発した Surface reaction-type Pre-Reacted Glass-ionomer (S-PRG) フィラーは、多機能性ガラス（フルオロボロアルミノシリケートガラス）を微細化及び多孔質ガラス化表面処理を施した後、ポリアクリル酸水溶液と反応させることにより、安定化したガラスアイオノマー相をガラスコアの表層に形成させた3層構造からなるバイオアクティブ新素材である。この S-PRGフィラーは、6種類のイオン（ストロンチウムイオン、ナトリウムイオン、ホウ酸イオン、アルミニウムイオン、ケイ酸イオン、フッ化物イオン）を徐放することにより、歯質強化能、酸緩衝能、抗菌効果を示すことが文献的に示されている。S-PRGフィラー含有材料は、そのバイオアクティブな作用による口腔内環境改善が可能となる材料として期待されている。

我々は今まで、株式会社松風と共に、S-PRGフィラー含有材料の高齢者歯科学分野への応用を進めてきた。まず、根面う蝕への対応として、S-PRGフィラー含有セメントの開発を進め、イオン徐放能を持つ新規根面う蝕修復材料を開発した。また、S-PRGフィラーを義歯安定材に添加することにより、抗菌効果を持つ義歯安定材の開発を進めてきた。さらに、S-PRGフィラーをナノサイズ化した、S-PRGナノフィラーをティッシュコンディショナーに添加することにより、ティッシュコンディショナーへのカンジダの付着を抑制することに成功した。

本セッションでは、これらの高齢者歯科学分野で応用可能な S-PRGフィラー含有材料について紹介させていただき、今後の展望についてお話しさせていただき予定である。

スポンサーセッション | Live配信抄録 | スポンサーセッション

スポンサーセッション5

座長：中澤 桂一郎（利根歯科診療所）

2021年6月13日(日) 14:30 ～ 15:20 Line C (ライブ配信)

[SS5] 新型コロナ禍の在宅医療の現場から～医科と歯科のよりよい連携のために～

○佐々木 淳¹（1. 医療法人社団 悠翔会）

(2021年6月13日(日) 14:30 ~ 15:20 Line C)

[SS5] 新型コロナ禍の在宅医療の現場から～医科と歯科のよりよい連携のために～

○佐々木 淳¹ (1. 医療法人社団 悠翔会)

【略歴】

1998年 筑波大学医学専門学群卒業

社会福祉法人三井記念病院内科／消化器内科

2003年 東京大学医学部附属病院消化器内科

2006年 最初の在宅療養支援診療所（MRCビルクリニック）を開設（現：医療法人社団悠翔会）

2008年 医療法人社団悠翔会（法人化）、理事長就任

【出版】

『これからの医療と介護のカタチ 超高齢社会を明るい未来にする10の提言』（日本医療企画、2016）、『在宅医療 多職種連携ハンドブック』（法研、2016）、『在宅医療カレッジー地域共生社会を支える多職種の学び21講』（医学書院、2018）等

「何かの時は入院できたら安心」と言われることがよくある。確かに病状が不安定となり、在宅生活の継続が困難であれば、一時的に入院するという選択肢はあってしかるべきである。しかし、在宅高齢者においては、入院によって身体機能・認知機能が低下する。これを「入院関連機能障害」という。フレイルの高齢者にとって、入院に伴う環境変化は心身ともにダメージが大きく、せん妄や認知機能低下が生じる。また食事制限がベッド上安静などによる急速な低栄養・廃用症候群の進行で、要介護度が悪化する。

在宅高齢者の緊急入院の50%は肺炎と骨折による。肺炎で入院した在宅高齢者は経過中に約30%が死亡し、退院できたケースは要介護度が平均1.74悪化、骨折で入院したケースも合併症で約5%が死亡し、退院できたケースは要介護度が平均1.52悪化していた。命を守るために、入院は必要不可欠な選択肢である。しかし「入院できれば安心」というのは必ずしも事実ではない。入院が必要な事態がなるべく生じないよう、予防医学的な支援が重要になる。

もちろん、加齢に伴い身体機能は低下する。しかし不適切な栄養管理により、低栄養、サルコペニア、フレイル、そして廃用症候群と負のスパイラルに陥り、老化のプロセスを加速させているケースが目立つ。これらは高齢者にとって要介護状態や死亡のリスクを高め、QOLを低下させる。在宅高齢者の健康を守るために、まずは低栄養という病態に対して地域住民や専門職に対する認知度を上げていかなければならない。

在宅栄養サポートのターゲットは、その人の栄養状態だけではない。その人の生活であり、その人の人生そのものでもある。在宅医療を受けている患者の多くは治らない病気や障害とともに、人生の最終段階に近いところを生きている。生物学的な栄養改善という医学モデルに基づく介入のみならず、生活の楽しみ、人生への納得のための支援という側面も重要になる。そのアウトカムは必ずしも生存期間の延長だけではない。

また、食事は生活の一部でもある。専門職に支配されるものであってはならない。家族の介護負担、経済的負担にも留意しながら、本人・家族が納得して食事を楽しみながら栄養管理ができる「自立した状況」にシフトしていくことを目標としなければならない。

どんなに栄養価の高い食材も、単なる「栄養補給」では味気ない。個々の栄養成分の充足率ももちろん重要だが、それはよりよい生活・人生のための手段に過ぎない。また、誰と食べるかも非常に重要なファクターである。食はコミュニケーションでもあり、高齢者の場合には、人とのつながりがその人の予後を左右する。医科歯科介護の連携により、包括的な在宅での食支援を実現し、食べることの本来の意味を見直すきっかけを作りたい。